

ぎふ感染症かわら版

令和5年7月27日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



動物由来感染症のリスクは身近に潜んでいます。

飼育されている犬や猫が、時に人に感染する病原体を持っていることがあり、飼い主さんなどへ知らないうちに動物由来感染症が広がってしまう場合があります。岐阜県では飼育や世話をされている犬や猫の感染状況を調査していますが、その結果から、注意が必要な状況であることがわかっています。

注意すべき動物由来感染症1：トキソプラズマ症

猫の糞便や豚生肉などに病原体（原虫）が含まれていることがあり、この病原体が口から入ることで感染します。多くの場合無症状ですが、体内に潜伏し、免疫力が低下すると肺炎や脳炎を引き起こします。また妊娠中の方は特に注意が必要です。

妊婦の方へ ～トキソプラズマ症は胎児に重篤な症状をもたらすことがあります～

妊娠中の女性が初感染すると、胎児に重篤な症状をもたらす先天性トキソプラズマ症（水頭症、精神運動機能障害など）の原因となります。



○犬や猫の感染状況調査の結果について（令和4年度）

病原体の保有率は犬が7.1%（42検体中3検体）猫が6.9%（29検体中2検体）であり、屋外飼いの方が保有率は高い傾向となっています。

感染予防の方法について

- ・屋外で動物や土（砂場）に触れた時は、石鹸で手を洗う。（動物からの感染を防ぐ）
- ・飼育している動物に生肉を与えない。（動物への感染を防ぐ）
- ・特に猫は室内飼いに努める。（動物への感染を防ぐ）

外的世界は交通事故だけではなく、感染症の病原体も潜んでいます。猫を守るためだけではなく、ご自身や家族を守るためにも室内で飼うことを強くお勧めします。

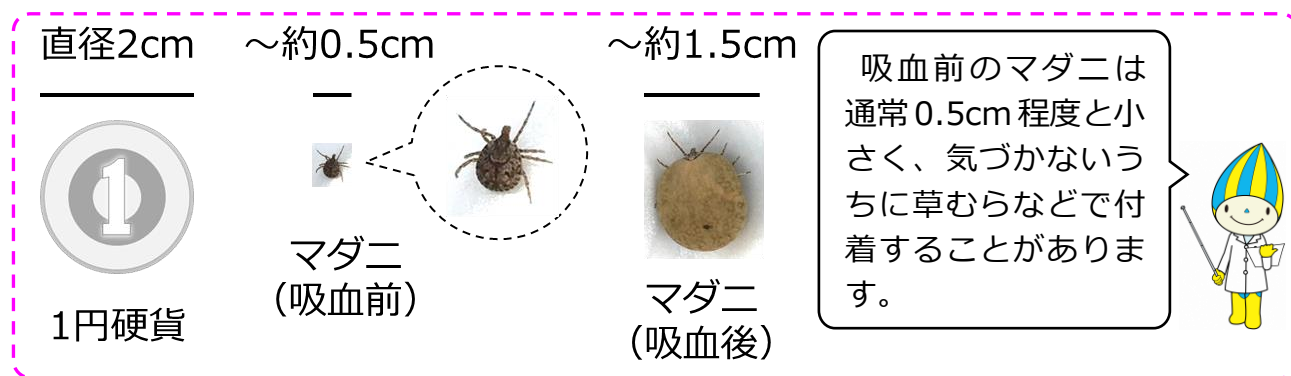


注意すべき動物由来感染症 2 :

ダニ媒介感染症（重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱など）

ダニ媒介感染症は病原体を保有するダニに刺咬されることで感染します。そのため野山などで注意することは重要ですが、稀に飼養する犬猫に付着したダニから病原体が検出されることがあり、近所の草むらなど、身近な場所にも感染リスクが潜んでいることが考えられます。生活圏においてもダニへの注意をお願いします。

SFTS の主な症状は発熱、消化器症状で、重症化すると死亡することもあります。また、日本紅斑熱の主な症状は頭痛、発熱、倦怠感等であり、適切な治療で回復しますが、治療が遅れると重症化することがあります。日本紅斑熱については、岐阜県内で令和3年12月に初めて患者が確認されました。これら2つの感染症はマダニの刺咬により感染します。



○犬や猫の感染状況調査の結果について（令和4年度）

SFTS

犬42検体、猫62検体について、また犬猫に付着していたマダニ42検体を調べたところ病原体は検出されませんでした。これまでの調査においても病原体が検出されたことはありませんでしたが、近隣県にて感染事例が報告されていることから注意が必要な状況です。

日本紅斑熱

犬猫に付着していたマダニ（42検体）を調べたところ、1検体から病原体が検出されました。平成26年度から実施している本調査で、県内の犬猫から病原体を保有するマダニが見つかった初のケースであり、同病への感染リスクは増加しさらに注意が必要な状況となっています。

感染予防の方法について

- ・生息場所に注意する。（近所の草むらや畑にもマダニは生息しています。）
- ・マダニの生息していそうな場所では肌の露出を少なくする。（熱中症にご注意ください。）

（参考）動物由来感染症について（岐阜県公式ホームページ）

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/13315.html>



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

